

オープン・スタジオ 2021-2022

黒田大スケ「祝祭の気配」

OPEN STUDIO 2021-2022
KURODA Daisuke "Hints of Festivity"

2021.7.16-7.18 11:00-17:00

主催 Organizer

公益財団法人東京都歴史文化財団東京都現代美術館 トーキョーアーツアンドスペース
Tokyo Arts and Space, Museum of Contemporary Art Tokyo, Tokyo Metropolitan
Foundation for History and Culture

展覧会に寄せて

レジデンス滞在中に私が取り組んだことは主に2つあります。1つはこれまで取り組んできた「彫刻の地獄」に関するものです。東京の公共空間に置かれた銅像にまつわることや、オリンピックと彫刻の関係性、マッカーサー銅像の建設計画等について、リサーチと作品制作を進めました。もう1つは、「イマジナリー・アーティスト」をテーマとし、アーティスト不在のレジデンス施設に漂い、彷徨うアーティストの気配に姿を与えようとしてきました。2つの取り組みは、リサーチの手法や方向の違いはありますが、情報を集めて考察することで姿なきものを追いかけて描くという点は共通しています。

展覧会では、この2つの取り組みの中から、いくつかの作品を選び構成しました。「彫刻の地獄」に関するものとしては、自分自身から「彫刻」と言われるものを取り出すべく、実在した彫刻家を、イタコのように、自ら即興的に演じたビデオ作品を展示しています。そして、こういった手法を応用し、大熊氏廣、後藤貞行、藤田文蔵、高村光雲ら近代日本の彫刻家による想像上の「マッカーサー銅像制作に関する意見交換会(オンライン)」のビデオを制作し、「イマジナリー・アーティスト」に関する取り組みと絡めて展開しました。

本来オープン・スタジオであったものが急遽展覧会に発展した経緯もあり、急ごしらえな部分があることは否めませんが、特別な状況下でも楽しんでいただけると心がけました。ゆっくりご鑑賞いただければ嬉しく思います。

黒田大スケ

トークイベント

日時：2021年7月17日（土）14:00-16:00

ゲスト：袴田京太郎（彫刻家、武蔵野美術大学教授）

※要予約、日本語のみ

国内クリエイター制作交流プログラムについて

日本在住のクリエイターを対象としたプログラム。特定のテーマのもと公募で選ばれたクリエイターは、同じテーマに取り組む「海外クリエイター招聘プログラム」の参加者と対話をしながらテーマを掘り下げ、個別にリサーチ・制作を行います。黒田大スケは「都市の祝祭性」をテーマとした、2020年度滞在クリエイター公募で選ばれました。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により2020年度は滞在できず、一年延期した2021年もほぼ全てのクリエイターが5月～7月の滞在をキャンセルしました。こうした非常事態ともいえる特殊な環境のなか、黒田は滞在制作を行いました。

プロフィール Profile

黒田大スケ KURODA Daisuke

彫刻、ビデオ、インスタレーション | Sculpture, video, installation

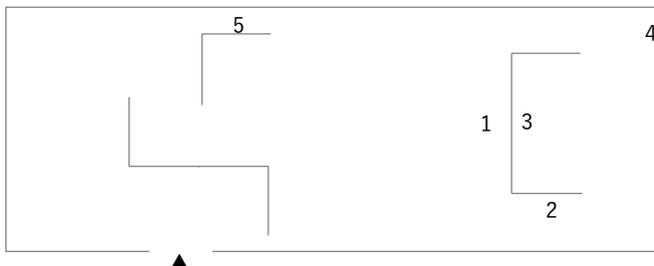
国内クリエイター制作交流プログラム | Local Creator Residency Program <2021.5-7>

1982年京都府生まれ。2013年広島市立大学大学院博士後期課程修了。彫刻家、橋本平八の研究で博士号取得。長く広島で活動していたが、2020年から京都を拠点に活動している。リサーチをもとに、彫刻、ビデオ、インスタレーションを制作するほか、展覧会の企画も手がける。近年の展覧会に、「未然のライシテ、どげざの目線」（京都芸術センター、2021）、「ギャラリートラック」（京都、広島市内、2021）、「本のキリヌキ」（瑞雲庵、京都、2020）など。

Born in Kyoto in 1982. Japanese artist and an exhibition organizer, working with sculpture, video installation based on his research. He received his PhD for the study of sculptor Heihachi Hashimoto at Hiroshima City University of Arts. After a long time in Hiroshima, he is based in Kyoto since 2020. Recent exhibitions: “Laïcité Forestalled, Through the Eyes of Dogeza” (Kyoto Art Center, Kyoto, 2021), “Gallery truck” (Kyoto and Hiroshima, 2021), “a clipping from a book” (Zuiunan, Kyoto, 2020).

<https://sites.google.com/view/daisuke-kuroda/home>

1F Studio 展示図



1F Studio

- 1 《TOKASのためのプラクティス》ビデオ／約6分／2021
“Practice for TOKAS” / Video / c. 6 min / 2021

かつて滞在したアーティストの痕跡を集めてイマジナリー・アーティストの可視化を試み、「それ」に実現しなかったマッカーサー銅像建設計画の模型の制作を担わせた。（協力：TOKAS レジデンス）

2～5「彫刻の地獄の為のビデオ」

- 2 《大熊氏廣のためのプラクティス》ビデオ／12'05"／2021
“Practice for OKUMA Ujihiro” / Video / 12'05" / 2021

- 3 《高村光雲のためのプラクティス 1》ビデオ／9'50"／2021
“Practice for TAKAMURA Kōun 1” / Video / 9'50" / 2021

- 4 《藤田文蔵のためのプラクティス》ビデオ／12'31"／2021
“Practice for FUJITA Bunzō” / Video / 12'31" / 2021

- 5 《後藤貞行のためのプラクティス》ビデオ／14'10"／2021
“Practice for GOTO Sadayuki” / Video / 14'10" / 2021

黒田の想像する、ロダンの「地獄の門」をくぐった先にある彫刻家たちの地獄の物語。実在の彫刻家を演じ自身から彫刻を取り出そうとするパフォーマンスのビデオで構成される。彫刻家は全て動物などの姿として描かれている。本展に登場する彫刻家たちはロダンの影響を直接に受けた世代ではないが、これは明治に始まる近代的な彫刻に関わる人々が、それ以前のものにルーツを求める実際の状況になぞらえ、彫刻の地獄が拡大し遡及的に彼らを飲み込んだと想定している。

Room 401

- 6 《マッカーサー銅像ミーティング（オンライン）》
インスタレーション（ビデオループ／11'26"）／2021
“Meeting on McArthur statue (online)” / Installation (video loop, 11'26") / 2021

※4階会場へはスタッフがご案内します。鑑賞をご希望の方は受付スタッフまでお声がけください。

【作品2～5のモチーフとなる彫刻家について】

大熊氏廣（1856-1924）

官立美術学校である工部美術学校彫刻科に開校とともに入学。イタリア人講師ヴィンチェンツォ・ラゲーザ（1841-1927）に学び明治15年（1882年）に首席卒業。日本における西洋彫刻家の先駆的存在として活躍。明治21年（1888年）にヨーロッパに留学し、帰国後、日本最初の西洋式銅像である代表作の《大村益次郎像》（靖国神社 外苑）を制作した。そのほかの作品に《有栖川宮熾人親王像》（港区・有栖川宮記念公園）、《小松宮彰仁親王像》（台東区・上野公園）など。

藤田文蔵（1861-1934）

明治9年（1876年）工部美術学校に入学し、ラゲーザに師事し彫刻を学ぶ。東京美術学校教授を務める一方、私立女子美術学校（現・女子美術大学）設立の発起人となり、明治34年（1901年）初代校長に就任。熱心なクリスチャンで大正8年（1919年）に牧師となる。大正14年（1925年）世田谷基督教会、世田谷幼稚園を創立し牧師、園長となった。代表作に《陸奥宗光公像》（外務省構内に設置されたが、昭和18年戦時金属属回収により供出、一部移設）、《榎本武揚像》（墨田区・梅若公園）、《井伊直弼像》（横浜・掃部山公園に設置されたが、昭和18年戦時金属属回収により供出）など。

後藤貞行（1850-1903）

馬に親しみ、馬の解剖も行うなど、馬の彫刻家として知られる。代表作は《楠木正成像》（皇居外苑）の馬像。軍馬局に勤めながら油画、石版画、写真術等を学び、30代に入ってから高村光雲に師事し、本格的に木彫に取り掛かる。明治17年（1884年）に明治天皇所有の馬である金華山号の銅像を制作。明治23年（1890年）から東京美術学校に勤務、高村光雲の指揮のもと、楠木正成銅像の共同制作を行う。《西郷隆盛像》（台東区・上野恩賜公園）の犬「ソン」の作者ともされる。明治34年（1901年）金華山号の故郷、宮城県鳴子町鬼首の荒雄川神社に金華山号の等身大の木像を奉納。

高村光雲（1852-1934）

11歳で仏師、高村東雲の徒弟となる。明治維新以後は廃仏毀釈運動の影響で、仏師としての仕事は激減。そのような中で光雲は木彫に専念、積極的に西洋美術を学び、衰退しかけていた木彫に写実主義を取り入れることで復活させ、江戸時代までの木彫技術の伝統を近代につなげる重要な役割を果たした。明治22年（1889年）から東京美術学校に勤務し、翌年に彫刻科教授となる。明治26年（1926年）にシカゴ万博に《老猿》、明治33年（1900年）にはパリ万博に《山靈訶護》を出品。《楠木正成像》（皇居外苑）（皇居外苑）では制作主任となり、主に頭部を担当。そのほかの作品に、《西郷隆盛像》（台東区・上野恩賜公園）、木彫《矮鶏置物》（宮内庁蔵）など。

【マッカーサー銅像建設計画について】

1949年末頃、東京で「マッカーサー元帥銅像建設会」が発起された。ニューヨーク港にある自由の女神と同じ高さのマッカーサー像を作り、それを浜離宮の一角に建て、東京湾を出入りする船から見えるようにするという計画だったと言われる。しかし、この計画は1951年のマッカーサーの連合国軍総司令官解任により立ち消えになったと思われる。集められた資金がどうなったかは不明。

占領期を通じて、日本人はマッカーサー及び総司令部（GHQ）に宛てて、推定50万通もの投書をしている。その内容はファンレターから陳情、請願、批判、密告まで多種多様であったが、「元帥の銅像を建てたい」という内容を含んだ手紙も何通も見られる。

その一方で2014年、環状2号線新橋－虎ノ門間のいわゆる「マッカーサー道路」が計画決定から68年を経て開通した。この「マッカーサー道路」という名称は、環状2号線の建設が決定された1946年当時、GHQが虎ノ門の米国大使館と東京湾の竹芝棧橋を結ぶ軍用道路の整備を求めたという俗説などに由来する。その後環状2号線は1993年に新橋－有明区間の延伸が決定された。2015年に全線開通予定だったものの、築地市場の豊洲への移転が難航したことから、今も築地－新橋間は工事中で、現在は、築地市場跡を通り抜ける暫定道路が供用されている。この延長された「マッカーサー道路」は、奇しくも今年開かれるオリンピック／パラリンピックにとって、晴海のオリンピック選手村と各競技場を繋ぐ大動脈の役割を果たすこととなった。

【参考文献】

- ・ 袖井林次郎、福島鏗郎編『マッカーサー記録 戦後日本の原点』日本放送出版協会、1982
- ・ 袖井林次郎『拝啓マッカーサー元帥様―占領下の日本人の手紙』岩波現代文庫、2002
- ・ ウィキペディア (Wikipedia) 「東京都市計画道路幹線街路環状第2号線」
(2021.4.11 更新)
<https://ja.wikipedia.org/wiki/東京都市計画道路幹線街路環状第2号線>
(2021.7.15 参照)
- ・ ハフポスト 「マッカーサー道路、68年かけて完成 東京オリンピックの大動脈に」
(2014.3.26 更新)
https://www.huffingtonpost.jp/2014/03/26/macarthur-street_n_5035702.html
(2021.7.15 参照)

* 当施設は集合住宅建物内にあり、一般の入居者の方もお住まいです。ご配慮いただきますようよろしくお願い申し上げます。

* 会場で TOKAS スタッフが撮影している写真・動画は、事業記録やクリエイター自身のプレゼンテーション資料として使用する他、TOKAS 公式ウェブサイト、SNS、YouTube などでご公開する場合がございます。不都合がございましたら、お手数ですが係員までお申し付けください。

皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

* TOKAS Residency occupies a part of a residential apartment building, thus we appreciate greatly your consideration for other residents.

* TOKAS will take photographs and video for the purpose of internal records and creator's presentation materials as well as for posting on TOKAS official website, SNS, YouTube and other media.

If you are not comfortable with it, please inform the staff.

Thank you for your understanding and cooperation.

トーキョーアーツアンドスペース レジデンシー
Tokyo Arts and Space Residency

東京都墨田区立川 2-14-7-1F
1F, 2-14-7 Tatekawa, Sumida-ku, Tokyo

Tel: 03-5625-4433/ Fax: 03-5625-4434

Email: contact_residency2021@tokyoartsandspace.jp

Web: www.tokyoartsandspace.jp/

TOKAS residency

文化でつながる。未来とつながる。
THE FUTURE IS ART

TokyoTokyo
FESTIVAL